

《学習のねらい》

- ・ごみの処理と地域の人々の生活との関わりに関心を持ち、ごみ対策や具体的な処理について調べ、ごみ処理が計画的・協力的に進められていることと、それによって地域の人々の生活の維持・向上が図られていることを理解する。
- ・これからのごみ問題の解消のために、一人一人が自分たちにできることを考える。

《学習の流れ》

実施時期 4月～7月

①社会科での学習

- ・ゴミについての学習
- ・水についての学習



②『環境紙芝居』…「ゴミの中から宝物」「水に関すること、水辺の生き物」の2つの話を聞く。

③日野浄水場の見学…事前学習をふまえた効果的な見学。

④総合的な学習の時間…自分たちにできることを考える。調べ学習。

⑤図工科での学習…環境ポスターに取り組む。

⑥ふり返り…学んだことを新聞作りを通してまとめる。



《指導のポイント》

- 「すみよくらしとゴミ」の学習を進める際、ゲストティーチャーを招いて、環境紙芝居を見ることで、より一層興味・関心を持つことができるようにする。
- 日野浄水場の見学では、事前に「水のゆくえ」の学習を行い、充実した施設見学にする。
- 環境の大切さを感じることができ、自分たちでできることを考えることができるようにする。
→環境ポスターや環境新聞の作成

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

○環境紙芝居…河内長野リサイクル市場市民の会

《成果（児童・生徒の感想や反応 等）

- ・社会科で学んだことを総合的な学習の時間において環境問題に発展させ、調べ学習をしたり出前授業を受けたりする中で、自分たちが快適に過ごすためには、たくさんの人の苦勞や努力があることを知ることができた。
- ・環境に対して関心を持ち、一人ひとりが環境を守っていこうという思いが生まれ、自分たちに何ができるかを考えるきっかけとなった。
- ・「ゴミの出し方に気をつける」「水は無限でないから節水する」等の意見もあがり、自分だけでなく、周りにも呼びかけようとする姿が見られるようになった。